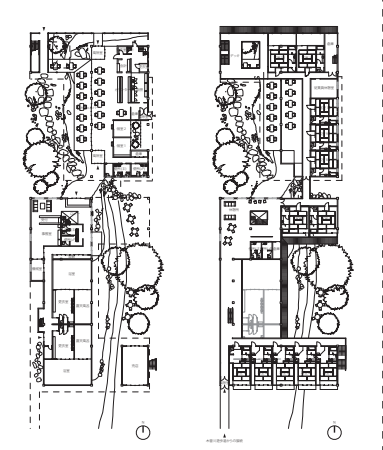
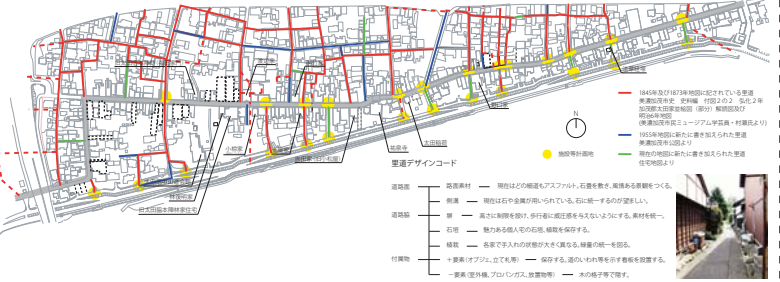
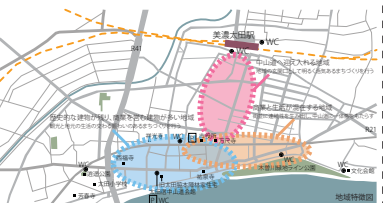


歴史まち歩きゾーン

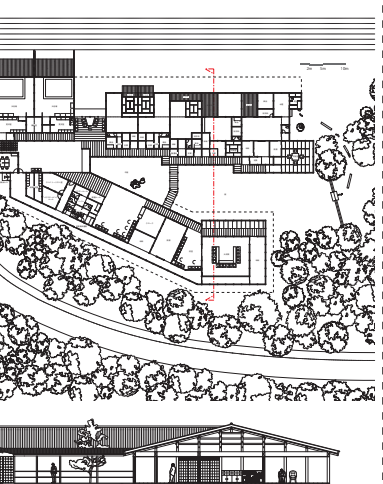
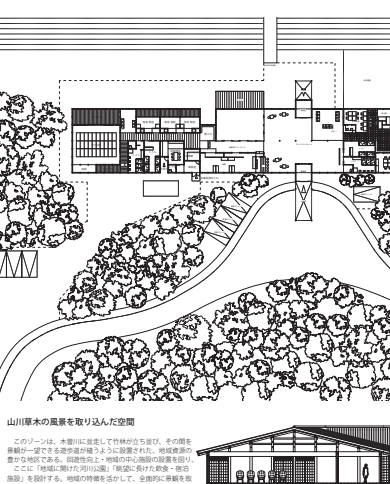
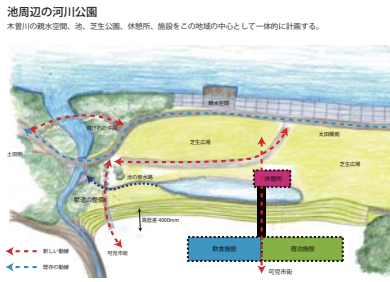
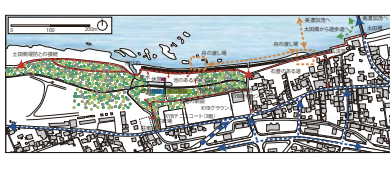
この地域には日本国体本館が建てられ、多くの歴史的な建物が多く残されている。さらに商店街の賑わい、観光と地域の生活の交わる地域として位置づけられる。最近では、駐車場や、街並みにそぐわない建物が介在することで、歴史的な趣意が失われている。また、地域の観光資源である本宮川沿いの緑地帯が、全体の高層性を阻害していることを目指す。

- (望望)**
 - ・緑豊かな環境を確保
 - ・緑地帯に建築物の存在感がなく、よい「可視性」の確保
 - ・道路は多く残ることでその利用方法も考えたい
 - ・歩道と自転車が欲しい
 - ・本宮川沿いの活用
 - ・田舎、中流大橋のアクセスにまず取り組んでほしい
- (問題)**
 - ・駐車場や最近建てられた家によって周辺の趣意が失われつつある
 - ・山道と本宮川の連携の連携がうまく取れていない
 - ・中流大橋の歩道が危険
 - ・山道の賑わいが失われつつある

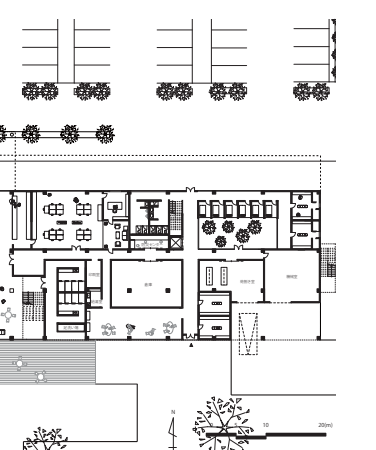
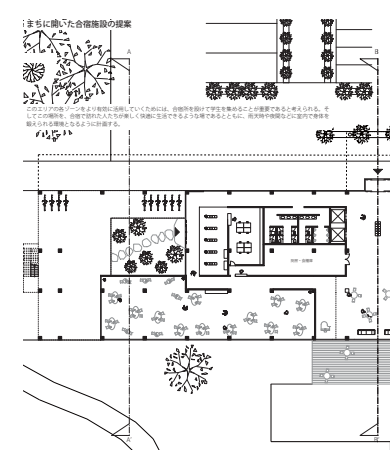
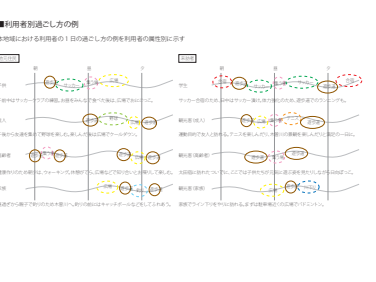
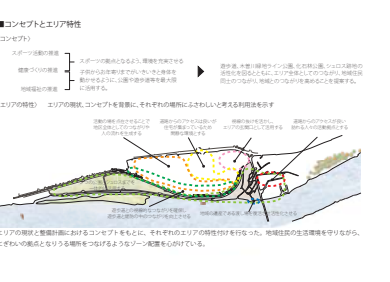
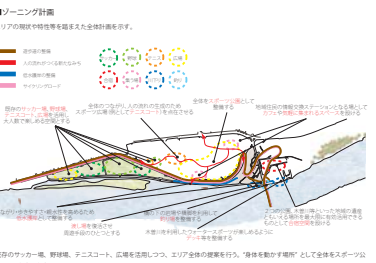


ゆったり竹林ゾーン

木宮川の自然を最も近い位置で体感できる遊歩道。地元民団体・木宮川沿岸遊歩道の会によってつくられた遊歩道は竹林と木宮川に囲まれ、雄大な自然風景が魅力となる地域である。木宮川沿いの回遊性向上を目的とした計画を提案する。遊歩道を歩く上で、拠点として河川公園を中心として地域全体について考えた。豊かな風景の中で、訪れた人がゆったりと過ごしている情景を描きながら設計した。



いきいきアクティブゾーン



ふれあい体験ゾーン

土田地区遊歩道は周辺に畑や田んぼなどの農地や住宅地、川原で取れる化石、野鳥が生息する林など多くの自然がある。しかし現在、この地区の遊歩道は十分な整備ができておらず、畑の裏山田圃に比べれば利用者が少ない。また、活されていない遊歩道によって人と木宮川は離れられ、距離が遠いにさえ感じられる。そこで私たちは、これらの自然を取り取り遊歩道に繋ぎ合わせることで一体的な、人と木宮川の距離を近づけるような提案をする。

